



カケハシ・プロジェクト（米国） 高校生オンライン交流（クラークストン高校、市立札幌開成中等教育学校）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】本プログラムは、米国ミシガン州公立クラークストン高校の日本語クラスを履修している生徒と北海道・市立札幌開成中等教育学校の生徒が、双方の学校紹介や生徒同士での少人数交流を通して、参加者同士のネットワークを強化し、相互理解を促進することや、国際交流を推進することを目的として実施しました。

【参加者】クラークストン高校、札幌開成中等教育学校の生徒 合計 29 名

（内訳） クラークストン高校 16 名

札幌開成中等教育学校 13 名

【訪問地】北海道

【日程】

■ 高校生オンライン交流：2024 年 12 月 7 日（土曜日）

1. 開会
2. 挨拶
外務省北米局北米第一課 外交実務研修員 中山 大輔 氏
3. 札幌開成中等教育学校による学校紹介
4. クラークストン高校による学校紹介
5. グループに分かれて交流会（各 20 分、計 3 回）
6. 各校生徒代表によるスピーチ
7. 記念撮影
8. 閉会

2. 記録写真

	
【学校紹介】市内札幌開成中等教育学校	グループに分かれて交流会

	
グループに分かれて交流会	グループに分かれて交流会
	
【生徒代表によるスピーチ】 クラークストン高校	記念撮影

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 米国 高校生

日本と米国の文化で類似点が沢山あるということを学べたことはとても興味深かったです。特に印象深かったのは、生徒たちが英語を学ぶことがとても難しいと言っていたことです。私も日本語を学ぶことについて同じように感じていました。

このような機会があればまた参加したいと思います！すばらしい経験でした。

◆ 米国 高校生

日本の学生たちは、質問や写真、プレゼンテーションなど、とても準備していたように感じました。彼らは洞察力があり、会話力もすばらしかったです。自分たちの地域と文化について本当に多くのことを教えてくれたのが、印象深かったです。この出会いをきっかけに、ぜひ札幌の生徒に会いたかったです。ぜひまた話したいです。日本の生徒と、もっと交流したいです。また、私たち全員の絆を深めることができるような活動、例えば、グループでボウリングに行ったり、また別の日には街に出かけたり、日本の生徒の生活を体験できるようなプログラムに参加してみたいです。

◆ 日本 高校生

英語でコミュニケーションを取ることができるのかとても不安でしたが、思っていたよりも米国の生徒とお話することができました。特に音楽については、世界共通のアーティストがいるので、とても話しやすかったです。もっと相手に話しかけたり自分のことを紹介したり積極的に話しかけられるよう、英語の勉強を頑張りたいと思いました。もっと国際交流したいです！

◆ 日本 高校生

楽しく交流をすることができました。日米の文化を互いに知ることによって新たな発見を得られ、良い経験になりました。ありがとうございました。今回参加しなかった生徒へ向けて、国際交流に興味を持ってもらえるような発信を校内でしていきたいです。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 日本 学校職員

今回の学校交流では、プログラム参加者と積極的にコミュニケーションをとることができました。生徒は自分たちの学校生活や文化、地域の魅力などを伝えることができ、米国に対しより興味を持つようになりました。

今後も国際交流活動に参加し、地域の国際化に貢献したいと思います。そして、他国の文化や人との交流を深めていきたいです。

特に生徒たちが、思ったよりも積極的に話していたことは印象的でした。中には発言の少ない参加者に対して「あなたはどうか」と発言を促していた生徒もいて感心しました。

同年代の学生と音楽や趣味の話題で共通項を見だし、海外を身近に感じられた生徒もいました。聞き取り能力がまだおぼつかないこと、発話が自由にできないことなど、英語の力をもっとつけなければならないと感じた生徒も多いと思います。

このような交流を定期的に行うことができれば生徒は大変喜びます。米国でもこの時間帯であれば交流がスムーズに進むことがわかり、良かったです。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

	2024 年 12 月 7 日（Instagram） また会えるのを楽しみにしています。
---	---

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）